

## 会 議 録

会議の名称	第28回茨木市こども育成支援会議
開催日時	平成30年10月26日(金) 午後6時30分～8時30分
開催場所	茨木市立男女共生センター501・502号室
出席委員	江菅委員(公募市民)、梶委員(私立幼稚園保護者)、片山委員(PTA協議会(幼稚園)、河田委員(青少年指導員連絡協議会)、木村委員(私立幼稚園連合会)、栗本委員(児童養護施設レバノンホーム)、小林委員(私立保育園・私立認定こども園保護者)、下田平委員(子育てサロン関係者)、田中委員(つどいの広場利用者)、西谷委員(公立保育所保護者会連絡会)、西之辻委員(民生委員児童委員協議会)、福永委員(平安女学院大学)、三角委員(私立保育園連盟)、美馬委員(児童発達支援センターあけぼの学園親の会)、宗清委員(放課後子ども教室代表者連絡会)、森委員(PTA協議会(小・中学校)、森田委員(つどい連絡協議会)、矢野委員(公募市民)、吉田委員(公募市民) (五十音順)
欠席委員	原田委員(株式会社原田設備) (五十音順)
事務局	岡こども育成部長、東井こども政策課長、中井子育て支援課長、山寄保育幼稚園総務課長、村上保育幼稚園事業課長、幸地学童保育課長、竹下相談支援課長、徳永商工労政課長、松本社会教育振興課長、加藤学校教育推進課長、足立教育センター所長、前田こども政策課主幹兼政策係長、中坂こども政策課主幹兼子ども・若者支援グループ長、中路保育幼稚園総務課課長代理、米崎こども政策課職員
案件	協議事項 (1) 次世代育成支援行動計画(第4期)策定に関わる市民意識ニーズ調査について (2) 次世代育成支援行動計画(第3期)平成29年度実施状況報告書(案)について
配付資料	資料1 次世代育成支援行動計画(第3期)平成29年度(2017年度)実施状況報告書(案) 資料2 茨木市次世代育成支援に関するニーズ調査(就学前児童の保護者) 〃 (小学生の保護者) 茨木市次世代育成支援に関するアンケート(中高生用) 茨木市次世代育成支援に関するアンケート(19～39歳対象) 茨木市子ども・子育て支援に関する事業所アンケート(幼稚園、認定こども園、保育所) 茨木市子ども・子育て支援に関する事業所アンケート(小規模保育施設) 茨木市企業主導型保育事業(事業所内保育施設)に関するアンケート(一般企業) 茨木市企業主導型保育事業(認可外保育施設) 当日資料 第28回こども育成支援会議 事前ご意見・ご質問表

発 言 者	発 言 内 容
司 会 東井こども政 策課長	<p>皆様お待たせしました。ご案内の時間となりましたので、これより茨木市こども育成支援会議を開催いたします。</p> <p>本日は、大変ご多用のところ、ご出席をいただきまして、誠にありがとうございます。</p> <p>会議の開会に当たりまして、こども育成部長からご挨拶を申し上げます。</p>
こども育成部 岡部長	<p>改めまして、皆さんこんばんは。今日はもう雨が降ってきたようで、足元の悪い中、また夕刻のご多用のところ、こども育成支援会議にご参加いただきましてありがとうございます。</p> <p>また平素は、子育て支援行政につきまして、ご協力、ご理解いただいておりますことを、この場をおかりして厚くお礼申し上げます。ありがとうございます。</p> <p>今日は、2点、協議案件をあげております。1点は、次世代育成支援行動計画の次の計画になります第4期計画を策定するのにベースとなります、市民意識のニーズ調査について、それからもう1点は、今現在運用中の第3期次世代育成支援行動計画の平成29年度の事業実施報告の後段の部分、前回、前半部分をご協議いただいたので、後半部分についてご議論いただきたいと思っております。いずれにしても、皆さんの活発な意見交換の中で実りある会議にさせていただければと思います。会議の冒頭に当たりましての挨拶といたします。よろしく願います。</p>
司 会 東井課長	<p>議事に入る前に、委員の交代がございましたので、ご紹介いたします。</p> <p>茨木つどい連絡協議会代表 森田委員に代わり、中村委員です。</p> <p>○中村委員あいさつ</p> <p>なお、本日の会議ですが、株式会社原田設備代表取締役 原田委員につきましては、所用のため欠席のご連絡をいただいております。</p> <p>また、本日、吉田委員ならびに木村委員はご出席でお聞きしておりますので、遅れてご参加いただけるものと思っております。</p> <p>また、株式会社サーベイリサーチセンターが会議録作成のため、この会議に同席しております。</p> <p>それでは、会議の議事進行を福永会長、よろしくお願いいたします。</p>
福永会長	<p>それでは、議事を進めさせていただきます。</p> <p>本日の委員の出席状況について、事務局から報告をお願いします。</p>
事務局 前田主幹兼係長	<p>本日20人の委員のうち17人の出席をいただいております。あと、お2人お見えでないですが、出席の旨は連絡をいただいております。</p>
福永会長	<p>今17人出席をいただいているとのことで、半数以上の委員に出席をいただいております。こども育成支援会議条例第6条第2項により会議は成立しております。</p> <p>では次に案件に進ませていただきます。第28回茨木市こども育成支援会議次第に従い、まずは第1の議題であります「次世代育成支援行動計画（第4期）策定に関わる市民意識ニーズ調査について」、事務局から説明をお願いします。</p>
事務局 前田主幹兼係長	<p>まず、ニーズ調査の概要ですが、就学前児童と小学生の保護者、それに19歳から39歳の若者について、各2,000件、合計6,000件を小学校区、男女別等、偏り</p>

のないように住民基本台帳から無作為抽出をいたしまして、12月12日頃郵送で発送、26日締め切りとする予定であります。これらについて、回収率を上げるためにインターネットでの回答も可としております。中学生は、市内に公立中学校が14校ありますので、各学校の2年生の1クラス約40人をお願いする予定です。高校生は、市内にあります府立高校、全日制6校、定時制課程1校、支援学校1校の計8校にご協力をお願いしたいと考えています。高校2年生2クラス約80人、定時制は約40人を対象とします。件数は、中学生約555人、高校生約600人、合計約1,200件程度の調査を12月11日以降に予定しています。

また、市内の認定こども園、幼稚園、保育所、小規模保育事業所、事業所内保育事業所、認可外保育施設、一般事業所への調査も実施します。就学前の調査票は事前に配付させていただいておりますが、国からのイメージと、大阪府を通じて調査票のひな型が示されており、それを基本に本市独自の項目を加え、全28ページ、質問数は48、項目数は101、うち、府のひな型が91項目、市の独自項目は10項目となっております。

小学生の保護者の調査票は、国からイメージは示されておらず、大阪府のひな型のみ示されており、それを基本に本市独自項目を加え、全18ページ、質問数は37、項目数は73で、うち、府のひな型が61項目、市の独自項目が12項目となっております。以上、概要です。

福永会長

ありがとうございます。まず、事務局から今回の第4期の次世代育成支援行動計画に関わる市民意識ニーズ調査の日程的なことを説明いただきました。

今日のこの会議の中で、委員の皆さま方から色々議論をいただいて修正を入れていくということで、11月20日あたりに業者がWeb調査の準備を進めていく予定になっていきますので、アンケートの内容については、それまでに確定したいというスケジュールです。調査自体は、12月12日あたりから発送され、12月26日に回収するということから、年の瀬、押し迫った時期ですので、回収率を上げるために督促状兼お礼状を送付し、最終1月10日目途くらいまで回答の決定を引っ張るということで進めていこうと聞いています。その他、広報誌やホームページを使った告知、あるいは幼稚園・つどいの広場等々での告知を進めて、こういった意識調査をしていくということです。

ということで、今回の市民意識ニーズ調査について、まずは就学前の保護者、それから小学生の保護者、そして中高生、それから今回初めて行う19歳から39歳まで、それにプラス、色々な事業者に対しても、特にこれは今後の保育利用のニーズをはかるという意味で、今回調査が行われるということです。

まず、資料2の就学前、小学生の保護者に関するアンケートの概要について、事務局から説明をお願いしますか。特に説明は必要ありませんか。なければ、質問を受けてよろしいですか。

そうしましたら、今の説明について、ご意見、ご質問がございましたらお受けしたいと思います。会議録の作成の関係上、この会議の中ではどなたが発言されたのかわかるように、「〇〇です」と発言者名をおっしゃってから発言をお願いいたします。それでは、まず就学前の調査票についてお願いします。

三角委員	こんばんは。私立保育園連盟の三角です。このニーズ調査の中には、国・府のひな型にプラス市独自の項目があるをご説明いただきましたが、その項目を教えてくださいませんか。
福永会長	それでは、市の独自項目についてお願いいたします。
東井課長	まず就学前の問9、問29、問30、問31、問38-1～529、問40-4です。
三角委員	ありがとうございます。
福永会長	今の市独自の質問項目については、事務局のほうから、こういうことで作ったというコメントがありましたらお願いします。
東井課長	前回のニーズ調査に基づいて、今回も作っております。国も府も前回、5年前のひな型も同様の形で示してきていますので、市のほうも前回と比較できるように同じ項目を置いているところです。
福永会長	ありがとうございます。今回新しくということではなくて、市がずっと作ってきた項目ということです。 それでは質問を受けたいと思いますが、いかがでしょうか。
三角委員	今の茨木市独自項目の中の問9ですが、「教育・保育の無償化を進めていますが、条件が許せば」という設問で、ここに「幼稚園」「保育所」「認定こども園」と書いてあります。これは皆さんわかっておられるという前提での質問ですか。これは、無作為に渡されるということですよ。
東井課長	はい。
三角委員	となると、「幼稚園」とはどういうところか、「保育所」とはどういうところか、「認定こども園」とはどういうところかというのが、わかっておられない方もひょっとしたらいるかもしれないので、その説明などはどうなのですか。
東井課長	表紙をめくっていただきまして、真ん中の【用語の定義】で、ここで「幼稚園」「保育所」「認定こども園」ということについて説明させていただいております。
福永会長	用語の定義という意味では、最初に「幼稚園」は学校教育法、「保育所」は児童福祉法、「認定こども園」は両方、それは中味まではわからないかもしれないですね。中味のことを詳しく情報が耳に入って理解していらっしゃる方と、全く馴染みのないような方、そういうことかと思いますが。これはいかがでしょうか。
東井課長	わかりづらいということであれば、もう少し掘り下げて書かせていただきます。
福永会長	掘り下げて書いたほうがよろしいのではないかというご意見です。 それでは、矢野委員、お願いします。
矢野委員	今の【用語の定義】の「保育所」のところですが、児童福祉法では「保育に欠ける」ということですが、平成27年の子ども・子育て支援新制度で保育の拡充が謳われる中で、「保育の必要な児童」みたいな形に言い方が大分変わってきているかなと。少し古い言い方です、「保育に欠ける」というのは。確かにそうなのですが、あまり最近言わないという気がいたします。
福永会長	もう少し詳しい説明を加えると事務局のほうからもおっしゃっていただきましたので、その部分の表記の仕方を変える形で。この「保育に欠ける」というのは、どうしても児童福祉法の法文の中に定義的に使われている言葉ですので、こうい

	<p>う表現になっているのかと思いますが、それ自体が非常に古い法文だと思います。もう少し柔らかいと言うか、少し変えて文章を加えていただくということでもよろしいでしょうか。</p> <p>それでは、他にご意見ございませんでしょうか。</p> <p>事務局のほうから各委員の皆さまにこのアンケート調査票を送っていただきまして、質問を受け付けている中に14件ほど改訂していただいたものがあるようですが、1つ1つ論議していきましょか。14件見ていきますか。それとも、この中からご発言いただいて直接意見や質問を聞いていただくほうがよろしいでしょうか。これも目を通していただきながら、どうぞご発言いただきたいと思います。いかがでしょうか。</p>
田中委員	<p>田中です。先ほどの問9に関してですが、「幼稚園に通わせたい」「保育所に通わせたい」というところで、幼稚園に関して私立なのか公立なのか、分類わけをしていただいたほうが、よりニーズ調査としては意味があるのではないかと考えております。無償化によって私立を選ぶ人が増えるのかどうかというところは、その年代を持つ保護者として気になるところでありますし、来年度の幼稚園入園の願書受付があつて、例年とは違う動きをする保護者の流れもあつたようなので、是非聞いていただけたらと思います。</p>
福永会長	<p>ありがとうございます。いかがですか、今のご意見ですが。</p>
岡部長	<p>問9は独自項目ですので、市の判断で修正を考えます。</p>
福永会長	<p>それでは、他の質問を受けたいと思います。いかがでしょうか。特にございませんか。特にないようでしたら、小学生に移ってもよろしいでしょうか。</p> <p>それでは、小学生の保護者に対するニーズ調査というところでご質問をいただきたいと思います。いかがでしょうか。</p> <p>こちらのほうは、事前に提出していただいている質問もないようですが、いかがですか。</p>
東井課長	<p>小学生のほうのアンケート調査の市の独自項目ですが、12項目と報告させていただきました。問22-1～22-5まで、問23の(4)(5)、問28、問31、問36、36-1、36-2、これらが市の独自項目で、問23の(4)のみ新規で1つ追加させていただきました。その他は5年前にお聞きした内容と比較するために質問項目は変えておりません。</p>
西谷委員	<p>西谷です。事前質問にあげていなかったのですが、問28の選択肢の中の1番「子どもに遊びを教えたりしつけをしてくれる場」とあります。「しつけ」というのがどの範囲のしつけなのかがちょっと気になったので質問させていただきました。</p>
福永会長	<p>「しつけをしてくれる場」ということですね。この設問の中にこの選択肢があつて、「しつけ」というのはどういうことを想定しているのかということかと思いますが、事務局いかがでしょうか。</p>
東井課長	<p>「しつけ」という用語は幅広く捉えてしまうところがあるのですが、子どもの遊びの中で、最近きょうだいも少子化で少なくなつてきている中で、子ども達に遊びのルールやマナーをという意味合いで「しつけ」という表記をしております。</p>

福永会長	ということですが、西谷委員いかがでしょうか。
西谷委員	これだけを見ると「ん？」と多分親としては思うので、もう少し加えて、括弧でも良いので「ここで言うのは遊びのルールやマナーです」など一言付けていただけると、そういうことねということに理解が早まると思うので、付け加えてもらえたらと思います。
東井課長	文言をもう少し検討させていただきます。
福永会長	その他いかがでしょうか。特にございませんでしょうか。 それでは、次の3つ目になります。中学生、高校生に対するアンケートをご覧ください。では、こちらのほうでご意見賜りたいと思います。よろしくお願います。まず事務局からアンケート内容についてご説明をいただきたいと思います。
事務局 中坂主幹兼 子ども・若者 支援グループ長	中高生と19～39歳を対象にしたニーズ調査、両方について、少し説明させていただきます。 次世代育成支援行動計画が、子ども・若者育成支援推進法に基づく子ども・若者計画を兼ねた計画であること、また、現在運用中の次世代育成支援行動計画(第3期)の計画策定段階頃から子ども・若者支援に取り組み始め、平成28年度には支援者からグループワークやヒアリングにより、子ども・若者の現状把握を行ったこと等から、今回は子ども・若者本人から現状把握を行い、今後の子ども・若者支援を充実させていきたいと考え、調査を実施するものです。 中高生につきましては、5年前のニーズ調査では主に結婚や子どもを持つことについて尋ねておりました。また19～39歳につきましては、先ほども説明がありましたとおり、今回初めて調査を実施することとなりました。ニーズ調査項目につきましては、子ども・若者支援地域協議会の構成機関の皆さまや、昨年度この協議会のスーパーバイズをしていただいた学識経験者の意見を元に修正を重ねてまいりました。協議会でも本日を期限として最終確認をいただいているところです。
福永会長	ありがとうございました。 それでは、ただいまの説明につきまして、ご意見、ご質問がありましたらお受けしたいと思います。栗本委員、お願いします。
栗本委員	レバノンホームの栗本です。レバノンホームは児童養護施設なのですが、この中高生調査票では、子ども達は、家族とか家とかいう部分で答えにくいかなと思っています。この質問票に家族の定義を「生活を共にする人」とか、また、「施設」と書いていただいても良いのかなとは思っていますが、そんな表現にさせていただいたほうが、子どもは答えやすいと思っています。家族となると、家族と接点がない子は全部書けないという状態になってしまいます。小学生や就学前とかは職員が書きますので、そこは書けないところは書けないでいけるのですが、子どもが答えるアンケートは、できればご配慮いただければ助かります。
福永会長	いかがでしょうか。
東井課長	「家族」という表記で、子どもさんにわからないような表現になっているというご指摘ですので、このあたりの表現を再度検討させていただいて、また栗本委

	員にもご相談させていただいて変更していきたいと思えます。よろしくお願ひいたします。
福永会長	ありがとうございます。ちなみに5年前のこの調査の時には、文言についてはそういったことは。
東井課長	5年前につきましたは、質問項目自体が結婚だったり子育てだったり、そういった意識に重きを置いた調査としており、今回先ほど説明させていただいたような中高生にとってどういった施策が必要かという視点で新しく項目立てしてありますので、前回はこのような「家族」などの表記はございませんでした。
福永会長	ありがとうございます。栗本委員、よろしいでしょうか。 そしたら、その他ご意見いかがでしょうか。森委員、お願ひします。
森委員	森です。もしひな型とかがあってそのままだったら申し訳ないのですが、問1の設問が私はすごくショッキングで、3の「どちらでもない」は多分LGBTに配慮しての設問だと思うのですが、「ない」と言われると存在自体を否定されたみたいになっちゃってしまったので、何かもう少し柔らかい問ひかけに変えていただけたらと思えます。
福永会長	いかがでしょうか。
東井課長	性別については、事務局のほうでもどういった表記が良いのか悩んだのが実情です。当初「その他」ということにしていたのですが、「その他」も男性・女性でもない何か特別なという思いになるのかなというあたりで、「どちらでもない」にさせていただきました。今現在こういった表記になっているのですが、逆にどんな表記が良いのか。他の調査では「答えたくない」とかいう言い方もあるようです。
森委員	逆に質問する必要があるのかなと思ひました。男性・女性、性別を聞かないと、そこが必要なのかなと思ひました。
東井課長	男性・女性で意識が違ったりするので、そこにクロスをかけたりできるのかなというところで性別を聞いています。それを記入していただくような取り扱いで、ご本人が男性・女性、またはLGBTの方が自分で答えていただけるような設問と回答の仕方のほうがよろしいですか。
森委員	私も回答を持っていないのですが、とりあえず引っかかったのはそこかなと。
宗清委員	宗清です。このアンケートを見せていただいた結果ですが、別に男性・女性とか性別を問わなくても関係なしにいけるのではないですか。この質問内容を見せてもらった限りでは。ここは別に省かれても良いと思ひます。以上です。
福永会長	質問項目からすれば、特に男性であるか女性であるかということは直接には関係ないと思ひますが、いかがですか。男女別クロスで何か違いが出てくるのかどうかということ、やはり事務局としては興味、関心の対象でしょうか。中高生になってくると、男子と女子で意識なり思いなりそういうものに違いはあるかなとは思わなくはないですが、直接そのことがどうかという質問自体は、確かにならうということ。いかがですか。
東井課長	性別についてはこの場に入れる、入れない、どういった表記が良いのかということ、それを即答できませんので、持ち帰って検討させていただいてよろしいですか。

福永会長	それではよろしく申し上げます。いかがでしょうか。
河田委員	河田です。事前質問でも出していたのですが、JKビジネスに関する問28のところ、問29で「知っている」と答えた方は見たり聞いたりしたことはありますか」で終わっていますが、もしこれを役立てるのならば、JKビジネスについてどんなふうを考えているのかという質問をもう1つ増やして欲しいと思いました。「質問項目をこれ以上増やせません」と書いてあるので仕方ないのかもしれませんが、今後の検討にさせていただきたいと思いました。
福永会長	それは河田委員、今後の検討でよろしいですか。
東井課長	調査票自体、学校を通じて授業や放課後に直接子ども達に配付して回答していただくと思っております、これ自体でもボリュームが少し多くて、書きだすと20分ほどかかるような項目数です。なるべく項目を絞って、聞きたいこととお聞きしたいということで、事務局でこの案を作らせていただきました。河田委員がおっしゃっているところも聞けばどうかということも当初あったのですが、やはり項目が多いということと、深いところまで聞いていくと、知らない子ども達もそれを知ってしまうのかなというようなところも考え、今回はここまでとさせていただいたということです。
福永会長	JKビジネスに関しては、今回このアンケートで調査項目として少し聞いてみようということですか。それに関して他の委員の方いかがでしょうか。あるいは他の項目について、いかがでしょうか。
小林委員	小林です。問16の「【すべての方にお聞きします。】あなたが家庭に期待したいことは何ですか。」という問いに関して、家庭に期待したいことというのがすごくザックリしていて、どう考えたら良いのかなというところと、選択肢8番の「家族を社会の荒波から守ってほしい」の「社会の荒波」をどう捉えて答えたら良いのかなと。自分が中学生だったら思うのか、ちょっと飛ばしてしまうかなと思いました。
福永会長	ありがとうございます。問16ですね。「あなたが家庭に期待したいことは何ですか。」選択肢の8番は、どういう項目なのかということです。いかがでしょうか。
東井課長	「家族を社会の荒波から」ということで、社会の何か困りごとと言うか、そういったことから守ってほしいという表現ですが、わかりにくいと言えばわかりにくいので、少しこれも検討させていただきます。
福永会長	家族の困りごとと言いますか、家族として大変なことを経験しているということについて、行政なり国や社会なりが家族を維持するためと言いますか、家族を支えるために何かをしてほしいというような意図でしょうか。
東井課長	質問では「家庭に期待」ということなので、そういった行政のサービスや支援というものもあるのですが、そこでまだ困りごと等が家族の中であったときに。
福永会長	社会の荒波から守ってくれる家族ということですね。
東井課長	はい。
宗清委員	中高生のアンケートで7番の「経済的に安定した生活を送りたい」というのは、何か生々しい質問に感じます。中高生に対して、親はそれなりに一生懸命頑張っ

	<p>ていると思うんですね。そこへ家族に期待するという声をかけますか、普通の子だったら。ちょっとこれは生々しい、子どもにとってはきつい質問ではないかという感じはします。</p>
福永会長	<p>いかがでしょうか。</p>
東井課長	<p>最近子どもの貧困という言葉をお聞きした方もおられると思うのですが、そのあたりの視点で聞いてみたいというこの回答項目になっているのですが、子どもさんがどう捉えているのかを調べたいというようなところで、こういう表現にさせていただいています。今おっしゃっているように生々しいのではないかというご意見もありますので、ここも少し表現を考えてもう一度検討させていただきたいと思います。</p>
美馬委員	<p>美馬です。問8の「あなたのご家庭で、してもらっていることをお答えください。」と表記されていて、1から10まで読んだところ、金銭的にしてもらっているということと捉えて良いのでしょうか。親としてはいろいろしてあげているのですが、この書き方だったら金銭的に困っている子達は、恐らく習い事に通うことも難しいし、旅行も難しいし。「してもらっている」は、どの程度「してもらっている」ことなのかなと思いました。</p>
福永会長	<p>問8「あなたのご家庭で、してもらっていることをお答えください。」ということで、この選択肢の項目は全て金銭的なことではないかと。家庭の中でそれ以外でも様々なことをしてもらっているのではないだろうかということと、あえてここは経済的なことを聞きたいということですか。</p>
東井課長	<p>こちら子ども貧困で経済的貧困ということもあるのですが、経済的にはそれなりに裕福であるが、文化的貧困という言葉もあり、我々が普通に思っていることができていないというところが、子どもの貧困の中でもあるというもお聞きしています。そういう意味合いで、日常家庭で金銭的な視点でしてもらっている、してもらっていないというところを把握したいというところで、この質問項目を入れています。</p>
福永会長	<p>ということですが、いかがでしょうか。生々しいと言えば生々しい質問になります。答える側としては、生々しい感じがするのではないかということです。</p>
宗清委員	<p>問8でお金がかかる問題云々もありますが、アンケートをとっていただきたいのは、これは学校でとられるのですよね。学校でとるとしたら、特に中学生あたりは思春期で正直に書けないと思います。それと、この中の9番の「医者に通う」、10番の「歯医者に通う」ですが、通わせていなかったらネグレクトです。だから、こういうところまでの質問が必要なかどうか、ちょっと疑問に思います。それよりは「朝食・夕食を作ってくれますか」などのように言い変えたほうが、やりわりといけると思います。「医者に通う」「歯医者に通う」がバツだったら、大変なことです。このあたりは検討していただけたらと思います。</p>
福永会長	<p>いかがでしょうか。検討するということでよろしいでしょうか。 それでは、他いかがでしょうか。</p>
西之辻委員	<p>西之辻です。これは、学校の先生の指示に従ってということ、封をして提出するのですよね。ということは、学校の先生はこの中味を見ないのですか。この</p>

	アンケートの中に救いが必要なケースが出てきた場合、これは誰なのかとか救える手立てはあるのですか。とんでもない話がもしかしたら出てこないとも限らないので。
東井課長	中高生については、名前で書いた内容が先生に知れると正直に書かないというところも考えられますので、学校の先生に配布していただいて、子ども達が封筒に入れて封をして提出するという方法で今考えています。ですので、個人を特定する目的で調査をするということではないので、そのあたりは今のところは考えてはいないです。
西之辻委員	何かとんでもない話が出てきたら気になります。出てこないに越したことはない、要らない心配かもしれないですが、それを知った状態で何もできないのも辛いと思いました。もし何かルートが確保できるのであれば考えておいてもらえればと思います。
東井課長	また考えさせていただいて、方法についてはどうするか検討させてください。
福永会長	ありがとうございます。これは意識調査というアンケートですので、どの子がどういうことを回答したのかは特定しないことが原則だとは思っています。ですので、そこからお医者さんや歯医者に通っていないという子が出てきたとしても、その事実を把握したけれども、対策・対応につなげられなかったとしても、その部分は直接つなげられるものではない、趣旨としてはそういうことになると思います。とは言え放っておけないと言いますか、この調査の結果こういう回答をしている中学生、高校生がいるということについては、教育委員会でしょうか他の行政部署でしょうか、結果についてはきちんと共有しながら、そのことについてはまた別の手段でも把握していこうとしていかなければ、いずれにしてもそれはつなげていかないといけないことだと思います。ということですので、検討いただければと思います。よろしくお願ひします。 他いかがでしょうか。
矢野委員	市民委員の矢野です。中高生用のお話しになっていると思います。最初に聞けば良かったのですが、かなり内容がセンシティブと言うのか、具体的にするどい質問がかなりありますので、教育委員会や教育センター、学校教育推進課のほうでも、このアンケートを作る際にはある程度コミットしていただいているのかどうかをお聞かせいただければと思います。
福永会長	先ほど簡単に説明はありましたが、こういった形でこれが練り上げられていったかということですね。
東井課長	事務局のほうで案を作成しました。先ほど申し上げた、子ども・若者支援地域協議会に教育委員会の学校教育推進課なり教育センターも入っておりますので、そこで少しご意見をいただいて修正をさせていただき、最後は庁内組織の次世代育成支援分会という組織がございます。そこでも教育委員会の今申し上げました関係課に入っただいて、最終ご意見をいただいて本日皆さんにお示ししているところでございます。
福永会長	教育委員会はしっかりこれを見ていらっしゃる、確認しているということですが、いかがでしょうか。

矢野委員	わかりました。
森委員	中高生の間 38 の地域の役に立てる支援ということですが、何か小さい子のことばかりです。「年下の子どもにスポーツや勉強を教える」とか。例えば高齢者の視線はいいのかなということと、6月18日に茨木市を見回りましたが、あの時すごく中高生が頑張ってくれたので、防災の視点とかそういうことも、せっかくなので入れ込んではどうかと思いました。
福永会長	1点目は、小さい子ばかりじゃなく高齢者とかを対象として、地域ではあるが年下の子に偏っているのではないか。そして防災などについての視点ですね。いかがでしょうか。
東井課長	今おっしゃった高齢者、それから防災の視点、少し考えさせていただきます。
福永会長	ありがとうございます。いかがでしょうか。
田中委員	<p>全体を通して、先ほど矢野委員もおっしゃっていたようにセンシティブな設問だったり、「貧困」というところに重きを置き過ぎて、最後の「地域の役に立てる支援」というところが後から付けたような感じがして、茨木市の中高生に質問した時に、探られている感がアンケートを書いた時にあるのではないかという印象がありました。設問の順番を変えたり、設問を増やせないということなので「地域の役に立てる支援」についてのところをもう少し工夫していただけたら、アンケートとしての印象が変わるのではないかと考えております。</p> <p>あと、アンケートの中で問10からお手伝いのことがかなり聞かれていて、そこも多分貧困に関わるところだと思うのですが、かなり掘り下げて聞かれているので、「お手伝い」というところで貧困と関係のない生徒にとっては、何故これを聞かれているのかという感覚がもしかしたらあるのかもしれないと思います。それはそれで良いのかなと思いながら、答える時に違和感があるような気がしました。一意見としてお伝えさせていただきたいと思いました。</p>
福永会長	ありがとうございます。非常に控えめにおっしゃっていただいたのですが、重要な論点だと思います。今回、家庭内介護の実態的なことを調べたいという意図が実はあるということですし、子どもの貧困がそれに関係してあります。ですから、本当に大変な思いをしている中高生はどのようなかということ、この機会に把握できればということがあります。そういうことを聞いて調べてみたいところですが、隠された意図をアンケートの中にしのばせて把握をするというのは、作り方としては非常に難しく、答える側からすると違和感を感じざるを得ない。追い詰められたり、問い詰められたり、全然関係ないのに違和感がある。その部分についてどう考えるのかというのは、ここで議論できることではないのかなと思いますが、非常に重要な点だとは思いますが、どうでしょうか。
東井課長	当初はもう少し生々しいと言うか、中学生にしては重たい表記でしたが、我々がここで知りたいのは、最近ヤングケアラーということで家できょうだいや高齢者を介護する方がおられて、お父さん、お母さんが勤めに行っている間に子ども達がきょうだいや祖父祖母の面倒をみている。その中で学校に行けなかったり、また勉強できなかったりということが社会問題になっているということで、子ども達の実態はどのようなかということを探っていきたい。項目数を減らしたり、

	設問の仕方も変えたりなどはしていますが、そのあたりを知りたいということで、問 10 から問 15 を入れさせていただいたというのが経過です。
福永会長	こういう形で聞くというのは、非常に難しい。本音で答えてくれるのかどうかという部分もあります。ただ、まさに今家庭内で介護をするためにまだまだ支障が実はあるが、それを表には出せない子ども達の問題点を把握しておきたい。子どもの貧困の中での実態について、どうやって把握をしていけば良いのかということだと思います。
田中委員	このアンケートをきっかけに、自分がヤングケアラーをしているということに気づく生徒もいるかもしれないので、ふんわり「お手伝い」とかではなくて、中高生であればそういう社会問題があることをわかった前提でこういう設問をしていますとするほうが理解しやすいのではないかと。高校生はいけるかもしれないけど、中学生は難しいかなというのは思います。今回はこれでいくにしても、そういったきっかけにはなるのかもしれないし、自分がこういうことにあてはまる、もしかしたら誰かに相談しないとイケなかったと、もし気づいたとしたら、じゃあどこに相談先があるのかがこのアンケートをスタートにわかるとすれば、解決に少しはつながると言うか、その生徒が気づけば良いのかなと思いました。
宗清委員	問 13 は、一緒に住んでおられたり、近所におじいちゃん、おばあちゃんがおられる部分にフォーカスされたのですか。そうではないのですか。この質問の中で「おむつの交換」は、中学生でしたらおむつの交換のお手伝いをする幼児がいる場合とない場合があります。あと、「保育所・幼稚園・学童保育・習い事などの送り迎え」は、あくまでも中学生や高校生目線で見れば弟・妹に対してです。この「おむつの交換」というのも、どちらとも取れる。中学生あたりが「薬を飲ませること」は、本当はやってはいけないことです。それと「遊び相手」、中学生がこのアンケートに答えるとしたら、弟・妹なのか、おじいちゃん、おばあちゃんなのか、それか障害等を持っている兄弟なのか、そのあたりの焦点がぼけていると思います。「トイレの手助け」にしても、若い弟・妹を持っていたら、そういうふうの手助けします。衣服もそうです。だからこれは、どこにフォーカスをあててこのアンケートをとられるのか。それをお聞きしたいと思います。
東井課長	問 12 で「家族のお手伝いを行っていますか。」というあたりで、家族ですので弟・妹であったり、介護する祖父・祖母であったりということで、対象にお聞きしているということです。ですので、「おむつの交換」や「トイレの手助け」も弟・妹であったり、祖父・祖母の介護であったりという想定で○を付けていただきたいということで、この項目にしております。
福永会長	「家族のお手伝い」という尋ね方をしているわけですが、ある意味では家庭の中で介護者と言いますか、親代わりになっている子どもがいるのかいないのか、あるいは、おじいちゃん、おばあちゃんのお世話をしている子どもがいるのかということ、スクリーニングしていく質問立てになっています。そのことと根本的な問題があるのかなと思いますが、焦点をきちんと絞って答えさせたほうが高校生くらいは良いだろうということかなと思います。中学生の場合、それはどうなのかなと。ここでこれ以上議論できるのでしょうか、いかがでしょうか。

木村委員	木村です。今の間 10 で「あなたは家族のお手伝いをしていますか。」で「している」か「していない」、「している」方は問 11 で誰の手伝いをしているのかですが、「していない」で問 12 にいった時に「あなたは、いつごろから家族のお手伝いを行っていますか。」というのは。
東井課長	すみません、問 12 は訂正させてください。「していない」方は問 16 になります。申し訳ございません。
福永会長	問 14 も順番が変わり、16、15 の後にくるということです。 いかがでしょうか。
下田平委員	下田平と言います。私は私なのかもしれませんが、そんなに深くは考えていません。多分これは学校の先生の指導の下で書いてくるので、そんなに時間は取られないのかなと思います。先ほどから心配されているヤングケアラーのところで、そういう生活が自然なものだと思っていて、そんなに疑いもなく、家族の中で自然にしなきゃいけない、こういう役割なんだという感じでやっているのかなと思うので、こういう項目があってもそんなに深く考えないで答えるのではないかなと思います。ヤングケアラーのこと以外でも、小学校の頃、幼稚園の頃からずっと自分の家庭での役割担当がありますよね。そういう軽い気持ちではダメなのですか。すごく神経質に細かく深く考えすぎていると思います。
福永会長	私の言い方の問題かもしれませんが、パッと見て答えてもらうことがこのアンケートの設問の仕方であるし目的で、下田平委員がおっしゃったことは、要するにそのことを本人が意図せずにチェックすることによって答えてもらえたら良いのではないかと、それが一番素直にわかるのではないかとということですね。 他いかがでしょうか。この件につきましては、いかがでしょうか。何か言い残したこと、これは言っておきたいということがございましたらおっしゃっていただいて、ここで何か結論めいたことではありませんので、これから検討という形にしたいと思います、よろしいでしょうか。
河田委員	今の方と少し似ているかもしれないですが、問 15 を読んでいくと普通にお手伝いしているが、後半の選択肢 7 番以降がすごく重たい答えになっています。何かお手伝いすることが悪影響を与えていると、普通に何でもなくお手伝いというイメージで捉えている子にとっては、お手伝いは悪いことみたいに見えてしまうかなと思って、ちょっとどうなのかなと。さっき言われていたみたいに、ケアで大変になっている子達がどれぐらいいるのかということスクリーニングするためには必要かもしれないですが、一般的な意味でのお手伝いということから言うとすごく重たいと思ったのですが、いかがでしょうか。
福永会長	また事務局からもご発言があると思いますが、私は基本的にはこういったアンケートにスクリーニング的な要素を入れ込むべきではないと思っていますが、今回こうなっていますので、それをあまり重たくなならない、生々しくならない、少し項目でわかるような形にもっていくのが一番良いのかなと思っています。個人的には、いかがでしょうか、事務局は。
東井課長	おっしゃっているように少し重たくなるということについては、今お聞きしてそうなのかなというのが正直な感想なのです。選択肢 7 番から 13 番を「その他」

	にして記述式にしてしまうというのも一つかなと感じましたので、少し回答項目を考えさせていただけたらと思います。
森委員	森です。そもそも「お手伝い」という単語が多分入らない。「お世話」ですよね、これは。「家族のお世話をしていますか」だったら私もずっと書けます。それで中高生が書けるのかどうかは問題ですが、「お世話」を柔らかくして「お手伝い」にされているとは思いますが、そう見ていくとこの設問がやっとわかりました。そのあたりの言葉も工夫していただけると有難いと思います。
福永会長	ありがとうございます。そうしましたら、「お手伝い」という言葉は「お世話」という意見がありましたので、そちらのほうもご検討いただくということで。
江菅委員	江菅です。ヤングケアラーということで、ちょっと視野が狭くなっているのではないかと思います。先ほども話が出ていたように、家庭での役割分担としての「お手伝い」ということと、今出ていたように家族に対する「お世話」というのをもう少し区別して書かないと。家の手伝いはしているがお世話をする相手がないというところが、どこにどう書いていくのかということで、書き手のほうが迷うのではないかと思います。私事ですが、うちなんかは子どもに「これはあなたの分担」という形で家庭の手伝いと言うか、役割分担をして躡けると言うか、そういう家庭も多いと思います。だからそのへんはちょっと視野狭窄になっているのではないかと思いますので、もう少し視点を広げて「お手伝い」について検討し直していただければ良いと思います。狙いは重要だと良く理解しているのですが、逆に回答するほうからすると何が「お手伝い」で何が「お世話」なのかというところが、峻別できるような形にされたほうが良いのではないかと思います。
福永会長	ありがとうございます。そちらのほうも、これから検討に加えていただきたいと思います。よろしくお願いします。 他にございませんか。それでは、19歳～39歳対象者のアンケートについて、いかがでしょうか。
田中委員	田中です。19歳～39歳のアンケートについては、1ページ開いたところにWEBでの回答のやり方が載っています。その他全体を通してのアンケートの表記に関してですが、就学前児童の保護者へのところにはURLのことが載っていません。フォーマットの違いがわかりにくかったので、先ほどWEB回答はしてもらえるとするとおっしゃっていましたが、どのようにわかるように載せていくのかというところが。
福永会長	そうですね。WEB回答が可能になっているのは、19歳～39歳対象の方のみですか。
東井課長	当初は19歳～39歳で考えていたのですが、やはり就学前、小学生の保護者もWEB回答のほうが答えやすい方もおられると思うので、急遽途中からWEB回答も並行して進められるようにしております。この裏面が間に合っていないのですが、皆さまに最終お見せする時は、WEB調査のやり方も就学前と小学生も入れていく予定にはしております。
田中委員	ありがとうございます。回答の締め切りの日程に関して、表紙に書いているのと裏面に書いているのでバラバラだったり、中開けたところに書いているものが

	あつたりするので、統一して一番前にわかるように書いていくようにしないと、締め切りが頭に入ってこなくて回答期日がどんどん遅れるというふうにならないのかなと心配だったので、またご検討お願いします。
福永会長	ありがとうございます。 その他いかがでしょうか。事前の質問では、問 15「あなたは、今までに学校で次のようなことを経験したことがありますか。」の選択肢の中に 4 番「不登校～」がありますが、それについて補足的に定義を記述してはどうかということと、「学校の友達とうまくいかなかった」を足してみてもどうかとあります。そして回答としては「不登校の定義は年間のべ 30 日以上なのでしょうか。「学校の友達とうまくいかなかった」は、選択肢 3 でカバーできると考えます。」となっていますが、この点に関してはいかがでしょうか。
東井課長	加筆してはどうかという提案をいただいています、その回答がないのですが、不登校の定義については加筆させていただこうと思っておりますので、よろしくお願いたします。
福永会長	質問者の委員は、よろしいでしょうか。
江菅委員	江菅です。No. 12 は私が書かせていただいたのですが、選択肢 3「友だちというよりも一人でいた」でカバーできているというお答えですが、一人でいるという選択をする子どもさんもいますよね。それと、一人にならざるを得なかったという子どもさんもいると思うのですが、そういう意味でここに書かせていただいたんです。と言うのも、不登校の一つの原因にもなっています。そういう意味で入れさせていただいたので、15 番も 16 番もある中で一つ増やしていただいても支障はないと思いますが、いかがでしょうか。
東井課長	今おっしゃった趣旨を理解できましたので、一つ項目として追加したいと思います。
福永会長	ありがとうございます。 他にいかがでしょうか。
西谷委員	西谷です。問 12 ですが、「あなたの家庭に期待したいことは何ですか。」これは 19 歳から 39 歳までの幅広い年代に対して「厳しくしつけをしてほしい」というところで、19 歳、20 歳になるまでだったらわからなくはないのですが、39 歳に対してどういうことかなということと、あと「家族を社会の荒波から守ってほしい」これも 39 歳になればもしかしたら自分で生計を立てて家族を持っているということが対象なのか、それとも両親や祖父母と一緒に住んでいるパターンがあると思います。ちょっと幅が広すぎる対象年齢であるのに、この問 12 が少しわかりづらいと思ったので、意見を述べさせていただきました。
福永会長	ありがとうございます。これはいかがですか。
東井課長	少し項目を検討させてください。
木村委員	これは、さっきの中高生と全く同じですよ。年齢が変わってもとりたい項目は同じにしているということでしょうか。
東井課長	はい。中高生も先ほどご意見をいただいていますので、両方とも少し検討させ

	ていただきたいと思います。
福永会長	ありがとうございます。その他いかがでしょうか。
田中委員	何度もすみません、田中です。この19歳～39歳のアンケートに関しては、中高生のように貧困や引きこもり、就労していない人に対して、そういう人達がどれくらいいるのかを把握するためのスクリーニングのような意図を持ったアンケートという捉え方でよろしいでしょうか。全体的にそれが8割くらいで、今後の茨木市についてこうしてほしいという意見を書く欄は、質問数もというような印象を受けたのですが。アンケートはどのように生かしたいと思っているのかというところ、先ほども説明あったと思うのですが、もう一度教えていただきたいと思いました。
東井課長	こども政策課では、今年子ども・若者支援グループが設置されておりますが、平成25年くらいから引きこもり対策の施策を進めております。その中で、子ども・若者支援地域協議会も設置いたしました。また、この春からユースプラザという子ども・若者の居場所や相談窓口も設置しました。対象となる生きづらさを抱えている子ども・若者がどういう実態にあるのか、またどんな意見があるのかを探らせていただいて、今の施策にないものについては今後検討していきたいという趣旨で、今回このような形でアンケート項目を構成させていただいたということでございます。
田中委員	ありがとうございます。
福永会長	一つの理解としては、19～39歳ということで意識調査的な形ですが、茨木市の施策についての一般的な期待がどこにあるか、そういったことを広く把握するというのが原則だと思うのですが、その中味、特にこういった引きこもりの問題について少し掘り下げているので、今田中委員がおっしゃったように、一般的な子育てに対する関心なり期待ということよりも、よりある部分に特化した設問がある。それに対して受ける側がどういうふうを受け入れるのかということがあるのかなということですが、そのこと自体をここで議論するのはなかなか難しいとも思いますし、今後の検討になるかと思えます。そうしましたら、時間の都合がありますので19歳～39歳までのアンケートについては、ここまでにしたいと思います。残っているのが、事業所アンケートです。事業所も小規模保育施設、一般企業、認可外保育施設、幼稚園・認定こども園・保育所とございます。事務局のほうから最初にご説明いただきます。よろしく申し上げます。
中路課長代理	事業所アンケートについて、説明させていただきます。 まず、アンケートをお願いする事業所ですが、市内の幼稚園・認定こども園・保育所、小規模保育施設、認可外保育施設、一般企業を考えております。 次に内容についてですが、まず幼稚園・認定こども園・保育所に関しては主な項目だけご紹介させていただきます。2ページ・問1では、認定こども園等への移行の考えについてお聞きしております。2ページと3ページの質問は、幼稚園への質問ということで考えております。次の4ページからは、幼稚園・認定こども園・保育所共通でお聞きする項目と考えており、問6からは小規模保育施設との連携について、また5ページからは保育士や幼稚園教諭の確保についてお聞き

	<p>しております。</p> <p>次に小規模保育施設になります。3ページ・問7では運営上の課題であるとか、問8では幼稚園・認定こども園・保育所との連携についてお聞きしております。</p> <p>次に、認可外保育施設になります。こちらでも3ページ・問7では運営上の課題をお聞きしております。</p> <p>一般企業の最後のページになりますが、事業所内での保育施設の設置への考え等をお聞きしております。なお企業主導型保育事業は今年度で募集が終了しております。現在のところ新たな募集は予定されておられないということですので、企業主導型保育事業に関する部分、例えば3ページの間3、問4のあたりは削除したいと考えております。その他にも幼稚園・保育所・認定こども園へのアンケートも含めて、文言が不足しているところや誤字等もありますので、そのあたりについては修正させていただきたいと考えております。本来であれば、委員の皆さまに資料提供する前までに修正すべきところですが、それができておらず、皆さまにはご迷惑をおかけし申し訳ございませんでした。これらのアンケート結果を踏まえて、今後の待機児童等の課題解消に向けての参考とさせていただきたいと考えております。説明は以上です。</p>
福永会長	ありがとうございます。この事業者アンケートは、まとめて質問をいただければと思うのですが、よろしいでしょうか。
美馬委員	美馬です。全体的な質問なのですが、基本的にこれは健常の加配、一般の普通の保育士だけで構成されるニーズを記載ということで良いですか。「年齢別配置保育士」と一般企業にも(4)に記載されていますし、認可外保育施設の間2、この全体的な設問が全て健常のお子様を通うという体の質問ということで良いですか。
福永会長	特別保育や障害児保育など加配を前提とはしていない質問かどうかということですね。
美馬委員	そうですね。
中路課長代理	もう一度、質問の意図を確認させていただきたいのですが、よろしいですか。
美馬委員	一般企業の4番「年齢別配置保育士」と書かれているのですが、小規模保育施設でも例えば問2に0歳児に対して「保育士」何人と記載されています。これはそもそも健常の子のみの人数配置の把握のみということでよろしいですか。
中路課長代理	0歳であまり加配はないと思いますが、3～4歳で加配の職員や保育士の方がおれば、その方も含めて実際にそこに配置している人数の記入を意図しているところですか。
美馬委員	ということは、今回は健常の子のみの把握ではなくて。
中路課長代理	その施設に何人いらっしゃるのかということで、聞いています。
美馬委員	わかりました。
福永会長	ありがとうございます。他に特にございませんでしょうか。
美馬委員	今ちょっと考えていたのですが、人数の中に加配とかの配置を考えていないという回答だったのですが、幼稚園・認定こども園・保育所になると加配が必要な

	<p>子がもちろん通園しているはずですが、その状況把握をする必要はそもそもないのでしょうか。</p>
岡部長	<p>回答がずれていますが、加配の職員も含めて全体の数をお尋ねすることになっています。</p>
美馬委員	<p>ただ、今実際に認定こども園に通っているとすれば、実際のところ途中で加配がいなくなる、辞めるとというのが3～4か月で2人、実質そういう問題が生じている中で「保育士」という大きな枠でアンケートされたとしても、実際に困っている保護者としては何の情報にもならないと言いますか、伝わらないと思いますので、もう少し噛み砕いて、もちろん健常のほうのはるかに多いことは理解していますが、実際に加配をつけて通っている子ども達もたくさんいるので、それをもう少し考えていただけたら親としては有難いと思います。</p>
岡部長	<p>わけて集計するような意図ですか。</p>
美馬委員	<p>そうです。実際保育士が何人で、何人の加配が今現在ここにいるのかという把握をしていただかないと、実際に今子ども達は宙ぶらりんの状態で毎日園生活を送っているので、4月から始まって実質は1年通していてくれないと困るものが3～4か月でいなくなる実際問題を理解していただくためには、これでは保育士が何人いるんだな、はいわかりました、で終わると思います。そのへんの理解をもう少ししていただかないと、障害児を持つ親としてはいつまでたっても宙ぶらりんで、明日辞めるかもしれないという不安を抱きながら園に通っている状態なので、その実際問題をきちんと見ていただきたいと思ひますし、改善策も練ってほしいと思ひます。</p>
福永会長	<p>ありがとうございます。今の委員のご発言ですが、趣旨は事務局のほうも受け止めていただきまして検討をしていただくという形でもよろしいでしょうか。</p>
岡部長	<p>ここではなく、美馬委員に個別でもう少しお話しを聞かせてもらってというところで、趣旨の部分も説明しながら、質問の仕方を考えたいと思ひます。</p>
福永会長	<p>それでは、他にいかがでしょうか。そろそろ時間ですので、特に何か思うことがありましたら、あと1つ2つご質問いただきたいと思ひます。いかがでしょうか。特にないようですので、本日の案件は以上とさせていただきますと思ひます。</p> <p>本日の次第の(2)については、次回11月に持ち越すということにさせていただきますと思ひます。</p> <p>それでは、次回の会議について事務局から説明をお願いいたします。</p>
事務局	<p>次回の会議は、11月27日火曜日18時30分から市役所南館1階大会議室で開催する予定です。本日ご意見いただきましたニーズ調査につきましては、回答をWEB調査でいただくものもございましたため、11月20日頃までにまとめる必要があります。ご意見の反映ですが、次回11月27日の会議では間に合わないので、ご意見いただいた内容の修正等をいたしまして、郵送で委員の皆さまに送付させていただきます。最終調整という形にさせていただきますので、よろしくお願ひいたします。次の会議の案件ですが、今回持ち越しさせていただきました平成29年度の次世代育成支援行動計画(第3期)の実施状況報告書、これは前回の会議でさせていただきます、今回は青年期の部分から続きをさせていただきますと思ひてお</p>

	<p>りましたが、この部分ということと、同じ次世代育成支援行動計画（第3期）の取り組みの一つであります「未来は変えられる 子どもの貧困対策」の平成29年度実施状況について予定しております。今回の会議同様ですが、事前にご意見をメールやFAXで連絡いただけますと大変有難いです。11月20日火曜日を期限とさせていただきたいと思えます。スムーズな会議運営のため、ご協力をどうぞよろしくお願いいたします。以上です。</p>
福永会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>これをもちまして、第28回茨木市こども育成支援会議を終了させていただきたいと思えます。長時間のご協力ありがとうございました。次回もどうぞよろしくお願いいたします。</p>